

# 伊丹福音ルーテル教会 四旬節第三主日礼拝のしおり

## 2022年3月20日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編 63 編 3-8 節

今、わたしは聖所であなたを仰ぎ望み あなたの力と栄えを見えています。  
あなたの慈しみは命にもまさる恵み。わたしの唇はあなたをほめたたえます。  
命のある限り、あなたをたたえ 手を高く上げ、御名によって祈ります。  
わたしの魂は満ち足りました 乳と髓のもてなしを受けたように。  
わたしの唇は喜びの歌をうたい わたしの口は賛美の声をあげます。  
床に就くときにも御名を唱え あなたへの祈りを口ずさんで夜を過ごします。  
あなたは必ずわたしを助けてくださいます。あなたの翼の陰でわたしは喜び歌います。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。  
私たちが祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。  
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様は私たちのために苦しみをしのび、私たちの代わりに十字架で死んでくださいました。世の中には不条理に見えるたくさんの苦しみがあります。その中で私たちは悔い改めて神様に立ち返って、私たちのために救い主をお送りくださった神様の愛とあわれみにみ信頼して歩むことができるように導いてください。また、今週も私たちが隣人のために喜んで苦しみを担うものとして、与えられた使命に生かしてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：第一コリント 10章 1-13節

兄弟たち、次のことはぜひ知っておいてほしい。わたしたちの先祖は皆、雲の下におり、皆、海を通り抜け、皆、雲の中、海の中で、モーセに属するものとなる洗礼を授けられ、皆、同じ霊的な食物を食べ、皆が同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らが飲んだのは、自分たちに離れずについて来た霊的な岩からでしたが、この岩こそキリストだったのです。しかし、彼らの大部分は神の御心に適わず、荒れ野で滅ぼされてしまいました。これらの出来事は、わたしたちを戒める前例として起こったのです。彼らが悪をむさぼったように、わたしたちが悪をむさぼることのないために。彼らの中のある者がしたように、偶像を礼拝してはいけません。「民は座って飲み食いし、立って踊り狂った」と書いてあります。彼らの中のある者がしたように、みだらなことをしないようにしましょう。みだらなことをした者は、一日で二万三千人倒れて死にました。また、彼らの中のある者がしたように、キリストを試みないようにしましょう。試みた者は、蛇にかまれて滅びました。彼らの中には不平を言う者がいたが、あなたがたはそのように不平を言ってはいけません。不平を言った者は、滅ぼす者に滅ぼされました。これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはず。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。

## 福音書朗読：ルカによる福音書 13章 1-9節

ちょうどそのとき、何人かの人々が来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた。イエスはお答えになった。「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭っ

たのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。決してそうではない。言っておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だったと思うのか。決してそうではない。言っておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」そして、イエスは次のたとえを話された。「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか。』園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。』」

### 讚美歌 286 番

- 1 神はわがちから わが高きやぐら 苦しめるときの 近き助けなり
- 2 たとい地はかわり 山はうなばらの 中に移るとも 我いかで恐れん
- 3 神の都には 静かに流るる きよき河ありて み民を潤す
- 4 御言葉の水は 疲れをいやして 新たなる命 あたえてつきせじ
- 5 神のみもとべは 常にやすらげく 苦しみ悩みも 消えてあとぞなき **アーメン**

### 説教：「来年は実がなるかもしれません」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

教会の暦は四旬節第三主日を刻んでいます。イエス様は私たちの罪のために苦しんで身代わりに死んでくださいました。それで私たちはまことの神様から自分中心でわがままな罪を赦していただき、神様を喜び人々を大切にしていくな新しい心をつくっていただきました。今悔い改めてイエス様を信じましょう。

イエス様は私たちに前もって相談してそのようにして下さったわけではありません。私たちがまだイエス様を知らないときに、まだ自分が罪びとであるということに気づいていないときに、既にイエス様は私たちのために一番必要な罪の償いを十字架の死によって私たちにかわって成し遂げてくださって、そのあとでこうして私たちにみ言葉によってご自身の愛のみわざを伝えてくださいます。

聖書の言葉を聞くとき私たちは神様の御前に立ちます。人の間に生きているときに気づかないことですが、神様の御前では自分は思っていたほどよい人間ではないとわかります。むしろき

よい神様の前にはとうてい立つことができないような、とても自分中心でわかまな者であること、さらに自分はそんな自分を、自分自身で治すことができないことを知ります。

聖書のみ言葉はそんな私に福音を伝えます。神様は私が罪びとであるにもかかわらず、私のために救い主のイエス様をお送りくださいました。イエス様の御代わりの犠牲によって私の罪を赦し、私が古い性質に死んで新しいイエス様のいのちにみなぎって歩むように、永遠のいのちを与えてくださいました。

私たちには自分を救うために何もできません。神様が私たちを大切に思い、あなたのために、全てをなさいました。私たちはみ言葉に照らされて自分の罪を知り、その姿に絶望するとともに、み言葉の示す救い主イエス様、つまり、私たちのために身代わりに苦しんでくださったイエス様に目を向けて、その苦しみがわたしのためだったことを信頼します。神様はイエス様に免じてあなたを赦し、そしてイエス様のいのちをあなたのうちに生まれさせてくださるのです。

ここで大切なことは、イエス様があなたを大切にしてくださることです。すべての人を愛してくださっていますが、その愛は、まず「あなたのため」です。あなたはご自分がイエス様に大切にされている当事者であることをご存じでしょうか。

聖書のみ言葉はあなたにむけて語ります。イエス様は今日の個所の直前のルカによる福音書12章で、お話を聞いている群衆に、心して神様の方を向いて歩むように語っています。いつイエス様が来ててもよいように、ほかの人はともかくあなたがたは心を備えていなさい、とおっしゃっています。12章のおわりのところでは、「あなたのことを裁判に訴える人と一緒に裁判所に向かうとき、裁判所に到着する前に、途中でその人と仲直りをするようにしなさい、そうでないとあなたは牢屋に入れられることとなりますよ」と教えました。そこに集まっている群衆に向かって「あなたは仲直りしなさい」と真剣にお話になっていたのです。しかし聞いていた人は、そんなものかな、まあ注意しておこうかな、と、我がごととして受け止めていません。人々は自分が悔い改めてイエス様を今信じるのがまだわかっていませんでした。

ルカによる福音書13章は、そのお話の続きです。ちょうどイエス様がそんなお話をしているとき、最新のニュースを伝える人が来て、総督ピラトがガリラヤの人の血を礼拝の捧げものの動物の血に混ぜた、と告げました。ローマの総督という立場にいたピラトという指導者が、ローマ帝国の支配に反抗的なガリラヤ地方の人がエルサレムにきて神殿で礼拝しているときを狙って軍隊を送り、襲撃して彼らを殺してしまったという悲惨な事件がおこりました。人々は殺された人の血が、捧げものの動物の血に混ぜられた、と感じました。

このような残忍なピラトの、あってはならない虐殺行為のニュースが飛び込んできました。群衆は、「なんとかかわいそうなことか」と同情したり、ピラトはなんてひどい総督だ、と悪口を言ったことでしょう。しかし、イエス様は彼らの心を知っていました。それは、ピラトに殺された人たちは今ここにいる私たちには関係がない人たちだ、と思っていたことでした。反射的に

自分はその事件には直接の関係はない、と一線を引いてから、犠牲者に同情したり加害者に怒りを持ったりするのです。

イエス様は「そのガリラヤ人たちが災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。決してそうではない。あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」と言われました。

人々は知らず知らずのうちに、彼らが総督ピラトに殺されたのは、ほかの人よりも悪い人だったからだろうと考えていたのです。苦しみには原因がある、自業自得だ、と直感的に思っていたことをイエス様は見抜いておられました。イエス様はそのような災難で命を落としたのは、その人たちがほかの人に比べて特別悪い人だったからではない、と言われました。むしろ、自分の罪を悔い改めて、イエス様に信頼していないと、あなたも同じように滅びます、と警告しておられます。神様の御前で人の罪は神様の裁きを受けて当然のもので、神様はその裁きからイエス様によってあなたを救おうとしておられます。人はいろいろな災難に会って苦しみます。自分に関係ないだろうとそこで一線をひくのではなく、「わたしのために」イエス様の救いがあることを覚えるようにとイエス様は導いてくださいます。人の災難や人の罪を見て、自分とは関係ないことと一線を引くのではなく、イエス様は私たちを導いて、自分も同じ罪びとであることを覚えて悔い改め、その罪のためにイエス様が身代わりに死んでくださったことを「わたしのために」と信じる信仰へと導いてくださいます。

イエス様はまた、有名な大きな事故のことにも触れました。シロアムの塔が倒れて、そこに居合わせた十八人の人が下敷きになって死んだという、たいへん痛ましい事故です。塔が倒れたとき下敷きになって死んだなんて、こわいね、運がわるかったのね、気を付けないとね、と人々は口々に言っていました。エルサレムにたくさん人がいるのにあの十八人が死んだのは、きっと陰で悪いことをしていたから、ばちがあたったのだろう、天罰がくだったのだろう、という人もいました。イエス様は「言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」と警告します。いつどのような災難が身に降りかかるか誰にもわかりません。普段から、悔い改めてイエス様に信頼するように、イエス様は強く私たちの心を動かしてください。

私たちはここでイエス様のお話を聞いていた群衆と同じような気持ちになりやすいですね。人は罪のために苦しみます。死も、罪の罰です。イエス様は罪を赦すためにあなたのために苦しんでくださいました。悔い改めイエス様を信じましょう。人の苦しみを、それはその人の問題で自分とは直接関係のないことだ、と思いませんか。自分が苦しい目にあうと、なぜこんな目にあわなければならないのか、と怒ったり、反対に自分が悪いから罰があたったんだ、とみじめな自分をあきらめて落ち込んだりしませんか。わたしの上に神様のみわざを見るため、と信じて、悔い改めてイエス様の救いを「わたしのために」と今、受け取りましょう。「我が神、我が神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と十字架で祈られたイエス様の苦しみと死が、私の罪を赦すための苦しみと死であったと信じましょう。

イエス様は次に、植えてから三年たってもまだ実を結ばないいちじくの木のとえを話されました。お話が飛ぶようですが、深いつながりがあります。三年たっても実を結ばないなら、別の木を植えようか、と土地の主人が考えました。しかし木のお世話をする園丁は主人にお願いしました。私が肥やしをやってみます。もう一年待ってください。イエス様は三年間の働きを終えて十字架にかかるためにエルサレムに向かっておられます。いちじくの木はイスラエルの民です。イエス様を見ているのに信仰の実を結んでいません。自分たちはアブラハムの子孫だから大丈夫だ、モーセの律法を守っているから大丈夫だ、と考えて、罪の赦しを与えるために来てくださったイエス様を、悔い改めて信じることはしませんでした。しかし園丁のイエス様は、切り倒すのはもう一年まってください、私が世話をしてみます、と言われていました。

イエス様を信じて、罪赦されて新しいいのちをいただくと、そこに生活の実が実ります。それは聖霊の実です。これまで自分の中になかったような愛が生まれます。これまでとは違うきよらかな喜びが与えられます。嵐のような試練に会ってもイエス様が支えてくださっている平安があります。悪意をもって攻撃する敵に対して不思議な寛容さをもって対応することができます。進んで親切にします。すべてを善意に解釈します。よいことを誠意をもって心を込めて行い、人と人之間を柔和に取り持ちます。自分の当然の権利もその場で主張することがふさわしくないとしたら自制をもって控えることができます。これらは悔い改めてイエス様の十字架の苦しみが私にかわって受けてくださった罪の償いの苦しみと信じた人のうちに与えられる、聖霊の実です。

聖霊の実は、私たちが自分の力で結ぶことができません。自分はわがままな自分中心な心だからです。悔い改めて、私の罪を赦して新しいいのちを与えてくださるイエス様を信じると、その命が聖霊の実を結びます。では、まだ聖霊の実を結んでいないなら、いつまでも自己中心な思いを断ち切れなくて生きているなら、切り倒されてしまうのでしょうか。イエス様は、ご自分が犠牲を払って十字架の苦しみを担いますから待ってください、と私たちに猶予を与えてくださっています。あらためて今、イエス様におこたえしましょう。悔い改めて、わたしのためにイエス様が罪の赦しとあたらしい命を与えてくださることを信じましょう。この一週間、聖霊の実を結んで、愛と真実に生きることができるよう、イエス様があなたを導いてくださいます。あなたも忍耐と誠実をもって、隣人を赦し、隣人とともに幸せをつくる新しい一週間を送るのです。

園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。 ルカによる福音書 13章8節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

**讚美歌 239 番 献金 献金感謝の祈り**

1. さまよう人々 たちかえりて あめなる御国の 父を見よや  
罪とがくやめる ころころは 父より与うる たまものなれ
2. さまよう人々 たちかえりて 父なるみかみの みまえに行き  
まことの悔いをば 言いあらわせ 世人は知らねど 知りたまえり
3. さまよう人々 たちかえりて 主イエスの御許に とくひれふせ  
わが主は隣れみ み手をのべて こぼるる涙を 拭いたまわん
4. さまよう人々 たちかえりて 十字架の上なる イエスをみよや  
血潮の滴る み手をひろげ 「生命をうけよ」と まねきたもう **アーメン**

**主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

**頌栄：讚美歌 541 番**

父、御子、御霊の おお御神に ときわにたえせず み栄えあれ、み栄えあれ **アーメン**

**祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

**後奏**